

NEWS

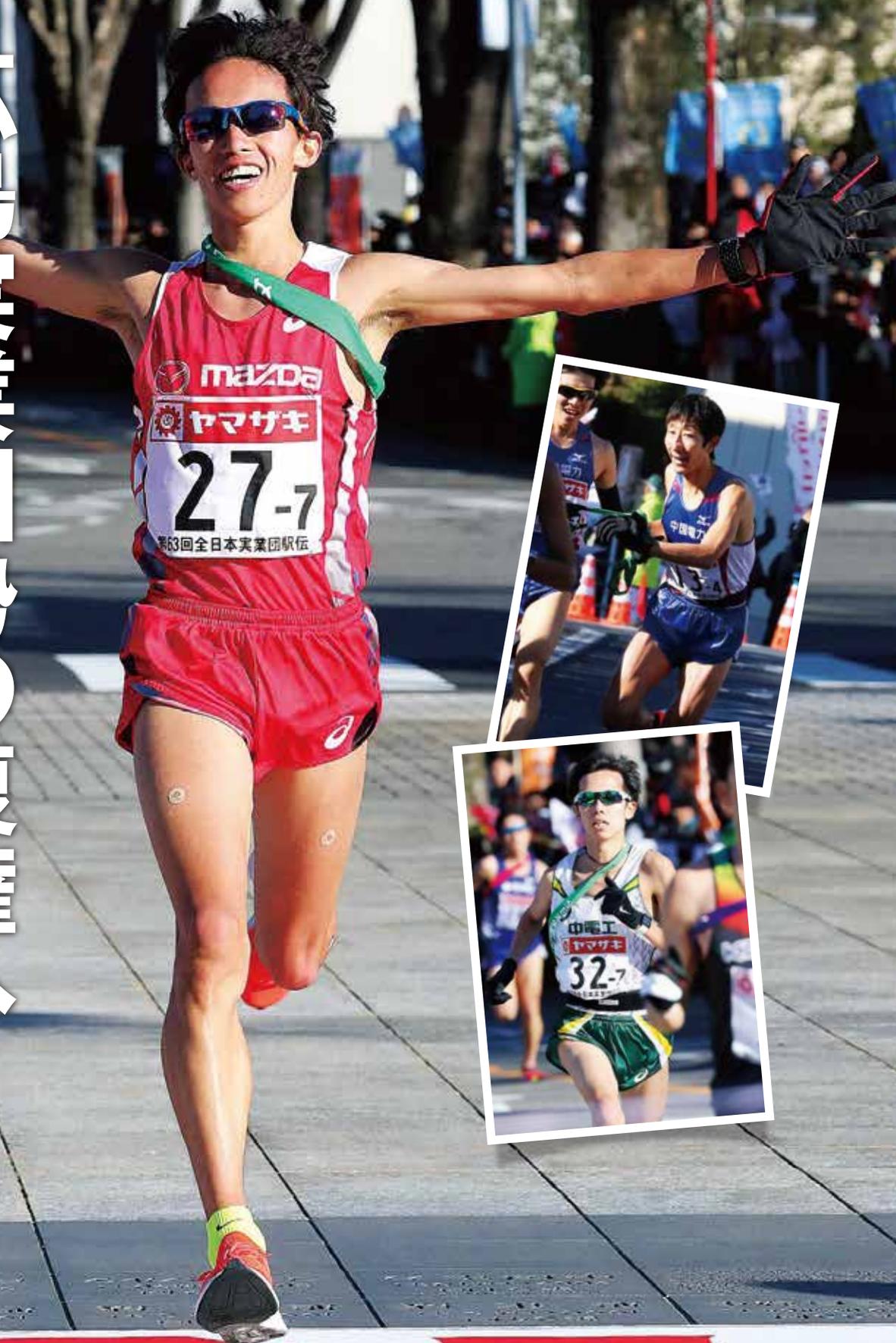
JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第91号

H31.3.31発行

42
第63回全日本実業団対抗駅伝競走大会で
広島実業団勢の復権へ
入賞!!



第63回全日本実業団対抗駅伝(ニューイヤー駅伝)

マツダ陸上競技部 | 駅伝(7区間:100km) | 総合順位(7位) | タイム(4時間54分20秒)



日頃より陸上部へのご支援とご声援ありがとうございます。2019年を7位入賞の明るい話題でスタートする事ができたのは、多くの皆様の協力があったおかげです。本当にありがとうございます。ここ数年、届きそうで届かなかった順位であり、この一年選手達が目的意識を明確に持ち、意欲的な強化に取り組んでくれた結果であると考えています。2020年に向け、更なる高みへ挑戦いたします。またチーム一丸となって目標達成にチャレンジして参りますので、引き続きあたたかいご支援とご声援をよろしくお願い申し上げます。

マツダ陸上競技部 監督 増田陽一



日頃から陸上競技部を応援していただきありがとうございます。元旦に行われたニューイヤー駅伝では、42年ぶりに7位入賞を達成することができました。ここ数年は予選の中国実業団駅伝で優勝したにも関わらずニューイヤー駅伝では結果が残せず悔しい思いをしておりました。そのような中でも多くの方々から頂いた暖かい声援が活力となり今回の結果に繋がったと思ひ感謝しております。今年もチーム一丸となって更に強化を図り、皆様に明るい話題を提供できるよう頑張りますので 今後とも陸上競技部へのご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

主将 山本憲二

プロフィール	第1区	山本雄大	(やまもと ゆうだい)	身長:165cm / 体重:49kg / 1993年6月22日生まれ(兵庫県出身)
	第2区	ベケレ・シフェラウ	(ベケレ シフェラウ)	身長:170cm / 体重:54kg / 1995年10月14日生まれ(エチオピア出身)
	第3区	延藤 潤	(のぶとう じゅん)	身長:173cm / 体重:58kg / 1991年12月24日生まれ(兵庫県出身)
	第4区	山本憲二	(やまもと けんじ)	身長:165cm / 体重:53kg / 1989年11月17日生まれ(広島県出身)
	第5区	橋本 滯	(はしもと づい)	身長:178cm / 体重:64kg / 1994年8月26日生まれ(群馬県出身)
	第6区	新井翔理	(あらい しょうり)	身長:177cm / 体重:59kg / 1995年6月5日生まれ(群馬県出身)
	第7区	向 晃平	(むかい こうへい)	身長:163cm / 体重:47kg / 1996年1月30日生まれ(長崎県出身)



2019年1月1日、群馬県庁前。マツダの赤いユニホームが7番目にゴール前に姿を現すと、チームメイトや応援団から大きな声援と拍手を浴びた。元日恒例の全日本実業団対抗駅伝。アンカー向晃平が両手を突き上げ、42大会ぶりとなる入賞のフィニッシュを決めた瞬間、ひととき大きな歓声が湧き上がった。



抱き合い、喜びを分かち合う選手たち。その横で、就任9年目の増田陽一監督は涙をこらえきれなかった。「選手が本当によくやってくれた。悔し涙ばかりを流して

きた場所で、うれし涙を流せて良かった」。現役時代から低迷期の苦しさを知る指揮官は、感無量の表情を浮かべた。

若手と主力が高いレベルで融合した。「3本柱」と絶対の信頼を置く延藤潤、山本憲二、橋本滯を主要区間の3～5区に配置。一方で6区新井翔理、7区向のルーキーコンビをはじめ、1区山本雄大、2区ベケレ・シフェラウも初の上州路だった。チームを長く支えてきた円井彰彦やテレッサ・ニヤコラが故障などで欠場。いわばチーム力の底上げの成果が問われる一戦でもあった。

最初のポイントだった1、2区を8位と49秒差の23位で発進。入賞圏内を視界に捉えたことが、「3本柱」の快走を呼んだ。3区延藤は「一つでも前に行く」と序盤から快調に飛ばし、田村和希(住友電工)らと並走してごぼう抜きを披露。「途中で何人抜いたか分からなくなった」と無心で前をかわし、15人抜きで8位へ浮上。第一人者の鑑坂哲哉(旭化成)に2秒差の区間2位と、大舞台でトップ級の実力を示した。

エース山本憲も続く。積極的な走りでも区間3位、4人抜きの力走で4位へ順位をあげる。5区では2年目の橋本が区間4位で5位をキープ。新井、向の両ルーキーも「赤城おろし」に負けず7位を死守し、増田監督は「全員が期待通りの走りをしてくれた」とたたえた。

1933年創部。輝かしい伝統を持つ分だけ、低迷の苦しみも大きかった。全日本実

業団対抗駅伝では東洋工業時代の第14回(1969年)と第16回(71年)に優勝し、第17回(72年)は準優勝と黄金時代を築いた。しかし、第21回(76年)の6位入賞を最後に下降線をたどる。90年代後半から2000年代前半までは出場を逃したり、30位台後半に沈んだりとどん底を経験。2016年から「中国王者」に返り咲くものの、過去3大会は16位、15位、28位と力を出し切れず、中国電力の順位を下回っていた。

大一番でいかに力を出し切るか。この大きなテーマに、今季は選手が自主的に向き合ったという。選手ミーティングでは大会にベスト状態で臨めるよう「ピーキング」の方法を共有し、意見を交わし合った。主将の山本憲は「選手の調子のムラがなくなってきた」と手応えを強調する。メンタルトレーニングにも積極的に取り組み、延藤は「能動的に、自分がやるんだという責任感を持てるようになった」と話す。42大会ぶりの快挙の裏には、心身の着実な成長があった。



マツダ以外の中国勢の健闘も光った。中国電力はポール・カマイシを故障で欠きながら、前回(14位)を上回る9位でゴール。2区終了時の32位から3区藤川拓也が区間5位で12人、4区では34歳岡本直己が区間2位の8人抜きで猛追。日本人選手だけのチームでは最高順位で、「平成の強豪」の意地を示した。

前回35位の中電工は過去最高の13位に大躍進した。1区相葉直紀が13位で発進し、2区ではチーム初の外国人アモス・クルガトが区間4位、9人抜きの快走で4位に浮上。エース級が集う4区では3年目の二岡康平が同5位と力走し、チームを流れに乗せた。二岡は2月の別府大分毎日マラソンで日本人最高の4位でチーム初のMGC出場を決め、中電工の「勢い」を象徴するランナーにもなった。

3チームの活躍により、来年からは中国地区の出場枠が4に戻る。創業100周年の節目に優勝を狙うマツダをはじめ、中国電力、中電工、そしてJFEスチールをも交えた飛躍が期待される。過去に計6度の全国制覇を誇る広島実業団勢の復権へ。上げ潮の希望に満ちた新シーズンが始まる。 text by K

男子:第69回
女子:第30回
ALL JAPAN
HIGH SCHOOL
EKIDEN

全国高等学校駅伝競走大会を終えて

●開催日/2018年(平成30年)12月23日(日) ●開催会場/京都府京都市

「レースに勝って勝負に負ける」2位じゃダメなんです!

前評判は女子の方が高かったが、男子に勝機(優勝)があると思っていた。レースは1区から想定通りに流れ、5区の終了時点で「今回はもらった」と思ったが、好事魔多し…絶対の自信を持って送り出した残りの2区間が機能しなかった。勝ちパターンだっただけに無念の一言に尽きる。私の選手起用と采配のWミスでありました。また、女子においては留学生がケガ(故障)で起用できなくなりオーダーの変更を余儀なくされることになった。昨年は男子で留学生を起用することができませんでした。二年続けて同じ失敗です。指導力不足を痛感しています。同窓生はじめ、応援して下さる皆さまに申し訳なく思っています。ただ生徒はよく走りました。

広島県立世羅高等学校 陸上競技部監督 **岩本真弥**



男子
《総合成績》
2位
準優勝!

(優勝という目標には届かなかったが、良いレースができた。3年生は卒業して次の進路へ、1・2年生は、来年度に向けてさらに努力し、良い報告ができるようにがんばっていきたい。

世羅高等学校 男子主将 **梶山 林太郎**

タイム/2'02'23"

1区	6位	29'26"	梶山 林太郎
2区	3位	08'18"	前垣内 皓大
3区	5位	23'57"	中野 翔太
4区	1位	22'32"	ジョンムワニキ
5区	4位	08'44"	新谷 紘ノ介
6区	12位	14'54"	北村 惇生
7区	3位	14'22"	倉本 玄太



女子
《総合成績》
17位

目標は達成できなかったが、一人一人が力を出し切って走った。この悔しい思いを1・2年生が来年度晴らすことができるよう、練習を積み重ねて欲しい。

世羅高等学校 女子主将 **平村 古都**

タイム/1'09'52"

1区	21位	20'14"	相原 美咲
2区	21位	13'29"	加藤 小雪
3区	22位	10'04"	朝比奈 雅姬
4区	11位	09'38"	山際 夏芽
5区	13位	16'27"	平村 古都



第26回

ALL JAPAN
JUNIOR HIGH SCHOOL
EKIDEN

全国中学校駅伝大会を終えて

●開催日/2018年(平成30年)12月16日(日) ●開催会場/滋賀県希聖が丘

男子
《総合成績》
6位

三原市立
第五中学校



タイム/57'27"

1区	8位	9'16"	友村 輝
2区	4位	9'20"	正畑 圭悟
3区	13位	9'39"	小橋 周平
4区	4位	9'27"	菅原 昇真
5区	25位	10'05"	角田 貴耕
6区	9位	9'40"	福田 悠太

僕たち三原市立第五中学校は、昨年末に滋賀県で行われた全国中学校駅伝競走大会に出場した。6年ぶり6回目(県大会優勝は7回目)の出場だった。自分が入部したとき、先輩は2年生ふたりだけで部員数は10人だった。この年の中国中学校駅伝は19位。翌年は、優勝を目指したが、39秒差の2位。本当に悔しかった。この日から、僕たちの挑戦は始まった。どんなに苦しいときも、くじけそうになったときも、あの悔しさを胸に頑張ってきた。そして迎えた中国中学校駅伝で優勝することができた。それから1ヶ月、広島県代表として、全国大会で優勝すべく、さらに練習を積み重ねた。大会当日、一時先頭に立った時もあったが、結果は6位入賞。ここまで育ててくれた先生や保護者、支えてくださった皆さんに申し訳ない気持ちでいっぱいになった。同時に「部員全員で走りきった」という達成感も残った。どんなに後悔しても、戻れない。来年こそは、先輩たちが全国の頂点に立ててくれることを願っている。これからも、感謝の気持ちを忘れずに、走り続けようと思う。

三原市立第五中学校 主将 **菅原昇真**



この5年間の県駅伝で2位が3回。届きそうで届かない優勝。悔しさを原動力に、ここまで繋いでくれた卒業生と部員全員の力で6年ぶり6回目の全国切符を手に入れることができました。これもメンバーに入れなかった3年生部員の強い思い、保護者の方々の絶大な支援の賜だと思っています。さて、全国大会では三原第五中学校としては3回目となる入賞を果たすことができました。広島陸協をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。レース展開や選手の違いについては、以下の中国新聞の記事を抜粋しました。男子で堂々の6位入賞。それでも全員が「悔しい」と顔をしかめた光景に、三原五の意地がのぞいた。「本気で全国優勝を狙って1年間練習してきた。この経験は今後の人生に生きるはず」。ベテランの登木監督は選手を優しく見つめた。狙い通りの序盤戦だった。1区友村が「流れに乗せる」と8位で発進。2区正畑が4位に浮上し、3区小橋も順位を保った。指揮官は「4区で先頭に立つチームが勝つ」とエースの菅原主将を配置。そんな優勝へのシナリオに、桂のエース村尾が立ち上がった。6秒差で先行した村尾に「早く追いつきたい」とハイペースで2位に浮上。だが追う背中からは徐々に遠のき、30秒差に離されてリレー。夢は遠のいた。前回は県内のライバル高屋が準優勝。「俺たちは優勝」を合言葉に練習を積み重ねた。「高屋の選手にも優勝を託されていた。申し訳ない」と菅原主将。前回の高屋の記録を5秒上回る意地を示し、三原五の挑戦はひとまず幕を下ろした。子どもたちの挑戦する姿に感動した全国大会でした。残り少ない教員生活になりますが、これからも子どもたちと一緒に夢を追いかけたいと思っています。

三原市立第五中学校 顧問 **登木治臣**

女子
《総合成績》
11位

東広島市立
高屋中学校



タイム/42'18"

1区	23位	10'39"	岩本 風音
2区	10位	6'55"	細木 優衣
3区	1位	6'51"	川野 さくら
4区	9位	7'06"	西谷 莉菜
5区	21位	10'47"	田中 美鈴

「もう一度全国に出て入賞を果たす」これは私たちがこの一年掲げていた目標です。昨年度、女子は18位。アンカーの私が順位を大きく落とし、とても悔しい思いをしました。チームは全国を意識し、コツコツと練習を続けてきました。7月には西日本豪雨災害があり、思うような練習ができないこともありました。しかし普段の練習からチーム内の争いが激しい良い影響を与えてきたと思います。そして迎えた中国中学校駅伝。女子は去年の記録を1分以上上回るタイムで優勝。この結果から、自信を持って全国で勝負しよう、また、チームが一つになった気がします。しかし、共に優勝を狙っていた男子は惜しくも2位。一緒に頑張ってきた男子が悔し涙を流す姿を見て「男子の分まで力を出し切って必ず入賞するんだ」という気持ちが強くなりました。全国大会に出場が決まってから、多くの先生方、保護者の方や地域の方々から支援していただき、励ましの言葉をかけて下さいました。多くの方々に支えていただいていたことは本当にありがたいことだと実感しました。私たちはより一層練習に励みました。全国大会前は、去年の経験を活かしてコースなどの特徴や、走りのポイントなどを意見交換していました。「走りて感謝を伝える」「入賞に向けて力を出し切る」そう話をして迎えた本番。結果は11位でした。入賞まであと8秒、悔しい気持ちとやり切った気持ちが入り混じる何とも複雑な気持ちでした。今までライバルとして仲間として切磋琢磨してきたチームのみんな。応援やご指導いただいた先生方。日々支えてくださった保護者の方々、地域の方々。本当にありがとうございました。これからも新たな目標に向け頑張っていきます。

東広島市立高屋中学校 主将 **岩本風音**



高屋中学校女子は、平成14～15年(第10、11回全国中学校駅伝連続3位)に続く中国中学校駅伝競走大会2連覇を果たし、全国中学校駅伝に挑むことができた。このような結果を残すことができたのも、昨年度からチームの主力であったキャプテンの岩本風音、副キャプテンの田中美鈴がチームをよくまとめてくれたことに尽きる。メンバー争いは熾烈であったが、練習が終わると先輩後輩の垣根を超え、いつも笑い声が絶えない明るい雰囲気はとても頼もしかった。夏、「全国中学校駅伝で入賞」を掲げ、練習、生活それぞれに目標を立て駅伝シーズン突入。レベルアップするための自主トレ、安定して力を発揮するための経験など、先輩後輩問わず伝え合える関係を見守るのが私自身としても心地よかった。全国中学校駅伝女子は、1区の岩本がプレッシャーの中、粘りの走りをし、2区細木優が持ちこたえ、3区川野が区間賞の力走で6位へ。4区西谷が5位まで順位を上げたが、全国のレベルは非常に高く11位でゴール。最後は目標とする入賞に8秒届かなかったが、昨年度の記録を55秒上回る田中のゴールであった。入賞へあと一歩及ばなかったが、先頭を意識してレースできたことは大きな経験となったはずである。保護者、地域、常にサポートして頂いた学校職員、「チーム高屋」すべてに関わっていた皆様へ感謝いたします。

東広島市立高屋中学校 顧問 **鈴木晶雄**

REPORT

年代別レポート

小体連

豪雨・猛暑・台風…今年には数々の災害に襲われた一年だった。そのため、全国小学生陸上広島県大会を始め、中止を余儀なくされた競技会もあった。

その中で、全国小学生陸上競技交流大会では、参加した多くの選手が自己ベストを記録したり入賞したりし、広島県の元気をアピールする活躍をした。その中で、6年女子100mの坂井実夢(びんごWAC)が第3位、5年男子100mの小田原功汰(にゃんじゃスポーツ)が第6位、女子80mHの藤原愛心(東広島TFC)が13"18(70cmH)の県新記録をマークした。

また、11月の第30回記念県小学生総合体育大会では、岡藤美音(石内南SKRC)と春日楓花(リトルランナズ広島)が女子800mで2'26"69の県新記録をマークした。2人は同組でのレースで、写真判定でも着差なしの新記録誕生であった。

さらに、12月9日の全国小学生クロスカントリーリレー研修大会では、東広島TFCが広島県勢として久々の入賞となる7位に入る大健闘で2018年を締めくくった。

このように、確実に進化を遂げている広島県の小学生陸上であるが、今後は指導者の育成を含めた「普及」が急務である。

今年度、小学生登録したチームは75あるが、陸上競技に関心をもつ小学生の受け皿としての態勢はまだ十分とはいえない。クラブチームをはじめとして、小学校や地域に、陸上競技の普及の輪を広げていきたい。

来年度からは、全国小学生陸上競技交流大会では、「コンパインド種目」として、混成競技(80mH+走高跳、走幅跳+ジャベリックボール投)が採り入れられ、さらにリレー種目も男女混合4×100mリレーとなる。幅広い種目に挑戦し、陸上競技の基礎を培うとともに楽しさや魅力を感じさせられるような小学生への取り組みを、なお一層進めたいと思う。

指導・普及委員会 普及副部長
金尾 誠可

中体連

中学生の駅伝シーズンを振り返る。各地の予選を通過した女子55チーム、男子57チームが中国中学校駅伝に出場した。女子は1区で昨年度1年生ながら積極的なレースを展開した山本悠理(大和中2年)が区間賞を獲得。大和中は続く東一葉(2年)も区間賞。来年度広島県中学校の長距離女子を引っ張っていくであろう二人の活躍が目玉を引いた。レースは高屋中の3区西谷莉菜(3年)で逆転、4区細木優衣(3年)が首位固めを二連覇。男子の高屋中は今年度、全国大会トラックレースにおいてすべて決勝進出を果たしている高屋中学校の小江幸人(3年)が1区区間1位で好スタート。2区では栗原中の塩出翔太(3年)が、箱根駅伝で活躍した工藤有生(高屋中卒)が持つ区間記録を更新し逆転。勝負を決定づけたのは4区を走った正畑圭悟(2年)が区間賞の力走でトップに立ち2位との差を広げた三原五中。そのまま首位を守り2位高屋中学校に32秒差をつけ優勝。高屋中学校の男子三連覇は成らなかった。

12月に滋賀県で行われた全国中学校駅伝には、女子が昨年に続き高屋中が男子は三原五中が出場した。高屋中は、3区を走った川野さくら(2年)が14人抜きで6位に浮上見せ場を作ったが1区賞には届かず11位。男子は、1区友村輝(3年)が首位と10秒差で発進。2区以降も好位置でレースを進め、4区の菅原昇真(3年)が2位に浮上。最後は6位でゴールした。

皇后盃全国女子駅伝広島県代表には、細迫由野(坂中3年・8区)、山本悠理(大和中2年・3区)、岩本風音(高屋中3年)が選ばれた。また、天皇盃全国男子駅伝広島県代表には、小江幸人(高屋中3年・2区)、塩出翔太(栗原中3年・6区)、吉川響(栗原中3年)が選ばれた。あこがれの先輩方から多くのことを学び、また「代表として走りたい」という気持ちは、競技を続けていくうえで

かならずモチベーションを上げるものとなるであろう。今年度も都道府県駅伝に向けての合宿、長距離ランナーの育成を目的とした選抜合宿が行われた。生徒とともに指導者にとっても貴重な経験となっている。

最後に、毎日の部活動指導に加え、合同練習や練習会を支えてくださっている指導者の方々に感謝したい。

東広島市立高屋中学校 鈴木 晶雄

高体連

トラック&フィールドのシーズンを終えて、駅伝、ロードレースのシーズンに入った。12月23日(日)に京都府都大路で行われた全国高校駅伝には、男女ともに世羅高校が出場。男子は1区の梶山が区間6位でタスキをつなぐと、その後も安定した走り4区のムワニキでトップに立った。その後6区で2位に後退し、最後まで先頭を追い続けるも届かず2位でゴール。優勝はならなかったものの、昨年の20位の悔しさを晴らす2年ぶりの入賞を果たした。女子は1区21位からのスタートではあったが、後半区間で順位を上げ17位でゴールした。

トラック&フィールドでは、冬期練習の最中ではあるが来シーズンを視野に室内陸上が開催された。2月2日(土)・3日(日)に大阪城ホールで行われた2019日本室内陸上競技大阪大会においては、男子U18 60mJHで八木勇気(広島皆実高)が7位、同走幅跳で山田悠斗(広陵高)が3位、男U20 60mJHで福本廉(広島皆実高)が3位、同走幅跳で藤原陸登(福山工高)が2位と4名が入賞。U18の出場者はインターハイ路線、U20の出場者は進学後のシーズンにそれぞれ弾みをつけた。

3月15日(金)～17日(日)に香港で開催された第3回アジアユース陸上競技選手権大会には、広島県から男子やり投の松重安真(広島市立広島中等)と女子800mの上田万葵(舟入)の2名が日本代表として出場した。それぞれ銅メダルを獲得した。

- 男子:やり投(700g) 松重安真 69.36m 銅メダル
- 女子:800m 上田万葵 2:09.76 銅メダル

広島県高体連陸上競技部 事務局長
五日市高校 野崎 秀和

学生連盟

広島県学連今年度の振り返り

現在、広島県学連では3月23日に開催される平成30年度広島県学連競技会に向けての準備を行っている。この競技会は例年、9月の始めに開催されていたが年々参加大学や参加者が減少傾向にあり、改善策が求められていた。そこで広島県学連では開催時期を本格的にシーズンとする直前の3月下旬にずらしたうえで、実施種目も以前は短距離種目が主だったものに中長距離種目もプラスしてより参加者が増えるように大幅な変更を行った。また、以前は広島県内の学生に向けての競技会だったものを、今大会から広島県外の学生も参加可能とし、更なる参加者の増加を図った。

広島県内はもちろん山口・岡山・鳥取の大学からのエントリーも見られ、早速県外の学生が参加してくれたという手応えを得た。来年度以降も参加大学と参加者が増えるように準備をしっかりと行っていきたい。

今年度の広島県内の学生たちは、自ら出場する大会以外でも幅広く活躍してもらった。小学生や中学生の大会において、審判や補助員の仕事を任せてもらった。今年度は特に審判関連の仕事が多かったように感じる。これらの仕事を全うできたのも、広島県学連に加盟する各大学の学生たちの協力があったからこそである。競技者以外として陸上競技に係わる経験が出来た一年間であったのではないだろうか。

私自身も昨年の4月に広島県学連幹事に就任して、一年、早くも退任する時期になった。振り返れば、この一年間に多くの皆様から多大なご支援とご協力を得て、広島県学連として様々な活動を行うことが出来ました。最後となりましたが、多大なるご支援・ご協力を頂きました広島県陸上競技協会の方々、広島県学連加盟校の学生の皆様を始めとした多くの各団体の皆様へ感謝の意を表して終わりの挨拶とさせていただきます。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部
広島修道大学 吉見 健太

実業団連盟

全日本実業団ハーフマラソン大会

2月10日(日)に山口市の維新みらいふスタジアムを発着として行われた「第47回全日本実業団ハーフマラソン大会」で中電工のアモス・クルガト選手が61分06秒で初優勝を果たした。

レース序盤は先頭集団でレースを進め、10kmを29分27秒で通過したが、11km過ぎのスパートで他を引き離し、独走態勢のまま初優勝のゴールテープを切った。大会後、クルガト選手は「優勝と自己ベストを目標としていたので非常に嬉しい。連覇できるよこれから頑張りたい。」と喜びを見せた。

また、当連盟の男子および女子選手が多数自己新記録を更新するなど、実りある大会となった。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される。当連盟実業団選手が一人でも多く代表に選ばれ、活躍することを期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局長
株中電工 栗原 圭太



↑アモス・クルガト

マスターズ連盟

2018年を振り返って

広島マスターズ陸上競技連盟は、今年度から広島陸協に所属することとなった。

2月には宮本武利会長が中国マスターズ陸上競技連盟会長に就任し、兼務している。

6月に県マスターズ陸上選手権大会を尾道びんご運動公園で開催し、中平圭祐選手がM30/ハンマー投日本新記録(マスターズ記録以下同じ)の活躍をみせた。

9月22日～24日に全日本マスターズ陸上選手権大会が行われ、広島県から103名の参加者があり、受賞者数も(メダル総数67個)過去最高を記録し、松浦崇史選手M25 60m 大会新記録で入賞、富久正二選手(最高齢)も世界記録目指して元気いっぱい走りやをされ、ダイヤモンド賞を受賞し、全国に広島の活躍を印象付けた。

10月14日の記録会では、今年から新種目として立五段跳びを加えて競技を行い、松島哲夫選手M85日本タイ記録も生まれる盛況であった。22～24日全日本マスターズ混成競技選手権大会では、澤田孝弘選手がM60五種競技日本新記録の活躍をみせた。27～28日は陸上競技と水泳競技が共同して5年ぶりに2018国際ゴールドマスターズ奈良大会が開催され、広島県からは30名が陸上競技に参加し、メダル総数39個(優勝12個)獲得、田村正憲選手M60 1マイル大会新記録で入賞の活躍をした。

11月3日～6日ねりんピック富山大会では、波多伸樹選手が70歳以上3Km優勝・西川八重子選手70歳以上5Km3位の活躍をみせた。

今年も三次市在住の富久選手(101歳)が県大会、中国大会、全国大会に出場し、多くの仲間が参加された中で100m記録挑戦の走りでもマスターズ大会を盛り上げた。生涯陸上競技現役で健康寿命を延ばしている会員の活躍の1年であった。これからも広島マスターズ陸上競技の活躍を大いに期待している。

広島陸上競技協会の仲間として、広島マスターズ陸上を今年も宜しくお願いします。

●広島マスターズ陸上HPをご覧ください。

ホームページアドレス

<http://sports.geocities.jp/mastershiroshima/>

広島マスターズ陸上 広報
磯村 公三

第25回 JAAFコーチング・クリニック

女性指導者のためのコーチング・クリニック



2月10日(日)第25回JAAFコーチング・クリニックが、広島修道大学を会場に開催された。今回は、特に女性指導者のためのコーチング・クリニックと題して募集し、全国から、約50名の参加者が集った。午前中は、グラウンドで実技講習があり、短距離は吉田真希子さん、棒高跳は近藤高代さん、投擲は成瀬美代子さんが講師をつとめた。午後は、「女性特性に関して」高尾美穂先生から、また、「女性アスリートおよび女性指導者の育成・強化」と題して日本陸連の麻場一徳委員長から講義があった。続いて、「女性指導者活躍宣言」をテーマとしたワークショップがあった。グループごとに熱心な意見交換や討議が展開され、参加者同士のネットワークが広がった。最後に、広島出身の元オリンピックの岡山恵美子先生から、参加者へ「基本と感動の大切さ」についてメッセージが贈られた。参加者から、「内容が大変充実している」「また、次回も参加したい」という声も聞かれた。

CHUGOKU WOMEN'S SERA EKIDEN

2019 中国女子世羅駅伝競走大会を終えて

●日時/2019年2月17日(日) ●開催場所/世羅町



大会の舞台を世羅町に移して5年目となる中国女子駅伝。今年は中国地方4県からオープン参加2チーム含め7チーム、福岡県からオープン参加で2チーム出場して頂き、全29チームにて行われた。昨年までの日程から1週間後ろに移動し開催され、例年と比べ天候にも恵まれた中、全チームゴールすることができた。参加チームが増えたことで沿道からの声援も多く、年々華やかな大会になりつつある。しかし、大会を終えて新たな課題も見えてきた。選手が競技に集中し、かつ安全に走り続けるため様々な予測をし、準備を行う必要があると振り返ることができた。

改めて、JAグループ広島のお力添え、世羅警察署、世羅町及び世羅教育委員会の皆様の多大なるご支援、ご協力の中開催できた事、感謝申し上げます。今後も広島陸協女子審判員を中心とし、男性審判員のご協力のもと運営できる体制を強化していきたい。

審判長 山田貴子



興譲館高校の生徒を中心にチーム編成をしたが、結果的に中学生区間の粘りが優勝につながった。自分自身が広島出身であり、中学生時代から広島の地で駅伝に取り組んでいた。そのおかげで今の自分がある。このような伝統のある大会に参加する機会を得たこと、さらに優勝することができたことを非常にうれしく思っている。

井原市陸協 監督 藤井裕也



最優秀選手賞

優勝できてとてもうれしいです。中学校の選手がすごくがんばってくれて、楽に走ることができました。私も、今年はトラックと駅伝でしっかりがんばります。

井原市陸協 興譲館高校2年 ムワング・レベッカ



ドリーム賞

昨年と違う区間を走り、区間新記録とドリーム賞を狙ってました。沿道からの声援がすごく力になりました。これからは出場する大会全てで優勝することが目標です。来年、3年連続のドリーム賞を狙って走ります。

三原市体協 大和中学校2年 山本悠理

LIONスポーツスペシャル

RCCひろしま女子駅伝競走大会

3月3日(日)RCCひろしま女子駅伝競走大会が、コカ・コーラボトラーズジャパン広島総合グラウンドで行われた。昨年を上回る117チームの参加があり、あいにくの雨にもかかわらず、小学生から大人まで、女性ランナーたちが、華やかに健脚を競った。中には、親子で襷を繋ぎ、入賞を果たしたチームもあった。楽しんで走る姿が印象的だった。



広島東洋カープとコラボ!

今年も、そこにも、あそこにも、陸女がいっぱい!!

走ることが好き、歩くことが好き、
走る人を応援することが好き、
ワクワクするその気持ち
そう! あなたも陸女!! RIKU★JO

女性の陸上ファンを増やすために、広島陸協と広島東洋カープがコラボした「陸女RIKU★JO・缶バッジ」を、1月20日(日)に行われた第24年全国都道府県対抗男子駅伝競走大会の会場で、無料で1000個を配布しました。

青少年の夢を応援します!

(順不同)

青少年健全育成協力企業

- 株式会社ソルハグループ
- ドラッグ&ファーマシー西日本
- 株式会社サタケ
- 朝日医療専門学校広島校

- 広島駅弁当株式会社
- 中国電力株式会社
- 有限会社道後山高原サービス
- 株式会社中電工
- 広島ガス株式会社
- 広島電鉄株式会社

- 広島総合警備保障株式会社
- 株式会社広島銀行
- 株式会社もみじ銀行
- 大塚製菓株式会社広島支店
- アシックスジャパン株式会社
- 株式会社 BTM

- 広島経済大学
- 株式会社合人社グループ
- 株式会社体育社
- 株式会社ニシヒロ
- COCOKALA GROUP
- T&T WAM サポート株式会社

- T&T タウンファーマ株式会社
- T&T ネットワーク株式会社

特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス